学校番号	３０８

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高校　政治･経済　（実教出版）						
副教材等	最新　政治・経済資料集 2019　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・主に政治、経済と自分との関係を考えてみる。
・日々の出来事のほとんどが、政治や経済の視点を抜きにしては語れないことを理解する。
・広い視野で世界情勢をとらえ、現在と将来の日本のあり方を考える。

2　学習の到達目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、主に現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに､それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の政治･経済の各分野について､制度や組織などを成り立たせるしくみを考えるとともに､異なる意見にも傾聴する姿勢を持つ。	現代の政治･経済の諸事象を考察し､身近なところで自分の生活に結びついた意見を持つ。	それぞれの政治･経済体制や思想を時代背景に関する諸資料を理解、活用して、適切な形で整理してまとめる。	政治･経済体制の違いについて、その時代背景をふまえた上で理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業ノート 授業の参加度	定期考査	定期考査	定期考査
	［主題学習］ １レポート課題発表 ２グループワーク討議 ３小論文課題	［主題学習］ １レポート課題発表 ２グループワーク討議 ３小論文課題	［主題学習］ １レポート課題発表 ２グループワーク討議 ３小論文課題	［主題学習］ １レポート課題発表 ２グループワーク討議 ３小論文課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第1編第1章	民主政治の基本原理	○		○	○	a: 日常生活の中に「政治」とのかかわりを実感できる c: 民主政治の原理を身近な集団の中で活用できる d: 民主政治の歴史を理解できる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
1・2	第1編第2章	日本国憲法と民主主義	○	○		○	a: 時事問題への関心を深める b: 現実の「自衛隊」や「軍事的諸問題」の実態を把握し、平和主義と関連して評価できる d: 国会、内閣、裁判所のしくみと役割、関連を理解する	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
2	第1編第3章	現代政治の現状と課題		○	○		b: 望ましい選挙制度について自分なりの考えを提示できる b: 「マスコミ」と「マスコミに対する個人のあり方」を考えることができる c: 現実の選挙に対し、その争点や結果について発表し一定のコメントをすることができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
2	第1編第4章	国際政治と日本	○	○	○	○	a: 戦後国際政治の流れを概観する b: 国際連合などの国際組織の役割とその課題を理解することができる c: 主な国際紛争の実態を調べる d: 国民国家と比較して国際社会の特質を理解することができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
2	第2編第1章	経済社会の変容			○	○	c: 両体制について経済成長および発展の事実を把握し比較できる d: 「資本主義経済」と「社会主義経済」の仕組み、特徴を理解する	・定期考査 ・提出物 ・授業態度

2	第2編第2章	経済社会のしくみ	○	○		○	a：経済の大きな時事問題やアルバイト、就職状況などの知見を通して、現実の企業、経済の動きに関心がもてる b：景気循環の要因を理解し、有効な経済政策を考えるとともに、政府の政策を検討、吟味することができる d：国民所得や経済成長の概念を理解し、本当の豊かさとは何かを考えることができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
2	第2編第3章	国民経済と国際経済	○	○	○	○	a：人、金、物などの国際交流と相互依存の状況を知り話題にすることができる b：国際社会における日本経済の位置を客観的資料で把握し、国際社会への貢献を考えることができる c：日本と東南アジア、欧米との貿易摩擦の実態を比較し発表できる d：戦後国際経済の流れと特徴を理解することができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度
2・3	第3編第1章	現代日本の諸課題	○	○	○	○	a：情報機器の活用を通して、その便利さと問題点を考えることができる b：高度成長後の産業構造の変化を理解し、問題点を考え討論することができる c：わが国の資源エネルギー問題、公害環境都市問題の実態を掌握することができる d：日本の労使関係の特色を理解し、直面している労働問題について考えることができる d：地方自治の仕組みを理解し、日常生活の中で、中央政府と地方行政の影響が強い部分はどこかを点検し、その是非を考えることができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度

3	第3編第2章	国際社会の諸課題	○	○	○	○	a：地球規模の諸問題に対し、日本の役割および各人は何ができるかを考えることができる b：南北問題実態を知り、格差是正の動きとその成果を吟味することができる c：地球環境問題の実態を調べ、発表できる d：軍拡競争と軍縮のあゆみを理解することができる	・定期考査 ・提出物 ・授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※　上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。